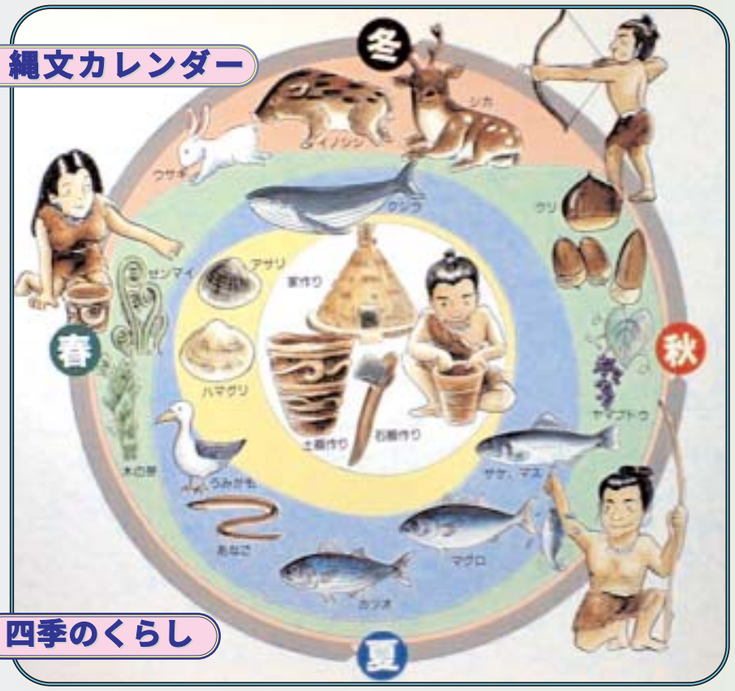
縄文時代の遺跡分布

縄文時代の名取のようす

８千年前から本格化した気候の温暖化は、６千年前頃にピークに達した。これによって大規模な海水面の上昇がおこり、仙台平野の低い部分にも海水が進入し、仙台平野は現在よりもはるかに北や西に大きく広がる湾を形づくっていました。現在、仙台空港がある所などは水没し、丘陵付近まで海水が入り込んでいたようです。その当時のようすは、丘陵沿いに分布する貝塚からも推測できるでしょう。この時に出現した内海の多くは、波のおだやかな遠浅の海でした。河川からそこに流れ込むことによって発生した豊富なプランクトンは、貝や魚にとって、とても良い環境を作り出したことでしょう。そして、縄文人はそこから多くの水産資源を手に入れ、生活を安定させることができたのでしょう。

内陸に入り込んだ海は、５千年前をさかいに退きはじめ、しだいに現在の海岸線に近づいていきますが、縄文人にとっては、今日のわれわれよりもはるかに海が身近な存在だったのでしょう。

縄文カレンダー



四季のくらし

泉遺跡で見つかった石器

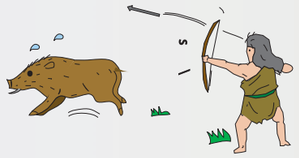
前野田東遺跡で見つかった土器

植物採集のようす

縄文人の装い

狩りのようす

おとし穴想定図



金剛寺貝塚で見つかったつりばり

宇賀崎貝塚で見つかった貝刃（貝のナイフ）

丸木船を使った魚とり

サケとりのようす

イラスト：小山内　祐子 氏